

子供の生きる力を見直そう — ポピーの学び方教室の実践から —

南田 瑳知子

全日本家庭教育研究会 蓬莱支部 対話主事

はじめに

「ポピー会員の家庭学習をサポートするポピー学び方教室を中心に、教育対話活動を充実させたい。」

当時の支部長のそんなお願いを受けて教育対話主事の仕事をしてお受けして、14年経ちました。以来、学び方教室は、活動の中心に位置づけて現在に至っています。

最近では、働きに出るモニターさんの増加、学校の下校時刻が遅くなってきたこと、社会体育や習い事の増加などで、共通の空き時間の確保が難しくなったことなどのため、毎月定期的に取り組めるところが、十数りになってしまいました。

教室では、次のような約束事を打ち立てています。

1. 教室は、幼児、小学生の混合で、月1回90分とする。
1. 会場では、履き物を揃えて脱ぎ、挨拶をしっかりとするなど、他家への訪問時の基本的なマナーを守る。
1. その日の勉強の大体の目安をもって臨む。（低学年は、親と相談して決める。幼児は親の同伴が望ましい。）
1. 終了前には、工作、ゲームなどをする。
1. モニターも赤ペンを持って丸をつける。

あくまでもポピーによる家庭学習をサポートすることを目的とし、判らないところはヒントを与えたり、フィードバックして思い起こさせたりします。

モニターさん達も、それぞれに一生懸命工夫して判らせようと努めて下さり、どうしてもうまくいかない時には、私共が交代してあたることにしています。

家庭学習で定着

小学校の新学習指導要領実施に伴う移行措置が行われている去年と今年は、特に算数において、「習ったけどよく判らない。」という子供が増えています。移行措置で学年が下がってきている内容では尚更です。以前の学年でも完全理解度が低かったのに、限られた授業時間の中ではなかなか定着までいかない場合が多いのは、当然かもしれません。

やはり、ここで習ったことをその日のうちに復習するというポピーの家庭学習のすすめ方の大切さが分かりますし、私共もこの学び方教室を通して、意識づけをはかる事にしています。

おたのしみ活動

教室では、終了15分くらい前から、簡単な工作づくりやゲームなどを入れています。

子供にとっては、大変楽しいひとときで、会場に来るとすぐに「今日のおたのしみは何？」と聞きに来る子も多いです。

費用がかからない、短時間でできる、作った後でそれを使って遊べる、などの条件で選びます。

牛乳パックのブーメラン、ストローロケットなどで、素材の切り方、折り方、着色など

でそれぞれ個性のあるものが出来上がり、少し手を加えて変形したり、飛ばし方を工夫したりすることができるので、単純な作り物でも結構楽しいようです。ひとしきり盛り上がって教室を終了します。

基本的な動作が危うい子供達

ここで思わぬ子供たちの一面が見えてきました。

方形に切ったカレンダーの中心に穴を開け、鉛筆の芯で押さえ、プロペラ状に折り曲げた羽根の部分にストローで風を当てて回すという簡単な卓上風車を作った時のことです。

どこに風を当てたらよいのか分からない子、ようやく回るようになったけれど机の上は唾だらけ、ストローに息を吹き込むことが上手にできない子が実に多いのです。

他にも、爪楊枝で回す牛乳パックのこまが回らない、おはじきが指で弾けないなど、次々と出て来るのです。

身近なもので遊びの道具を自作して遊んだ時代は遠くなり、精巧に作られたおもちゃでスマートに遊ぶ、日常生活を見回してみてもボタン操作一つで大抵の事ができてしまう時代です。このまま行けば少しずつしる確実に基本的な生活動作にまで支障が出て来るのではなかろうかと考えるのは、私一人なのでしょうか。

気づいてほしい子供の一面

このように、氷山の一角の子供達を相手にした学び方教室の中からも、今の子供達が直面しているいろいろな問題が浮かび上がって来ます。

私達は、このような事実をできるだけ多く

の親達に知ってほしいと、モニター便りに掲載したり、小集会の中で話題にしたりしています。

ただ、こんな話題を出していくと、殆どの親達は、子供の生活動作の異常についてはあまり気づいていないようです。

おわりに

「親はまずくらしを誠実に」で始まる教育五訓の四つ目、「習慣づくりは人づくり」の解説に、子供にとって、生活と学習は不即不離であります。勉強のよい習慣も、生活の良い習慣も、それらは互いに交流して、おのずから人間づくりにつながります、とあります。

子供達のよい人間づくりのために、私達大人は、子供の目線に立ってものを見、子供により添いながら長所を伸ばし、欠けている部分を補ってあげる努力を怠ってはならないと思います。

及ばずながら、私共もお手伝いしていきたいと思います。